

## ▼ランマーク皮下注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 デノスマブ(遺伝子組換え) denosumab [genetical recombination] 【分類】 悪性腫瘍に伴う骨病変治療剤 [ヒト型抗 RANKL モノクローナル抗体製剤]

【単位】 ▼125mg/V [1.7mL]

【常用量】 ■多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変：1回 120mg を4週間に1回

■骨巨細胞腫：120mg を第1日，第8日，第15日，第29日，その後は4週間に1回

【用法】 上腕，大腿又は腹部に皮下注 [室温に戻し，27G の注射針使用]

【透析患者への投与方法】 重篤な腎障害患者には慎重投与 (1) Cr 30mL/min 未満の患者では使用経験がない (1)

【その他の報告】 2HPT を合併していると低 Ca 血症のリスクが高くなるので注意 (Farinola N, et al: Intern Med J 43: 1243-6, 2013 PMID: 24237647)

Ca 低下作用は1回目より2回目で軽度 (穴戸寛治, 他: 日腎会誌 58: 329, 2016)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 重篤な腎障害患者には慎重投与 (1) Cr 30mL/min 未満の患者では使用経験がない (1) 重度の腎機能障害患者では低 Ca 血症を起こすおそれが高いため慎重投与 (1)

【その他の報告】 腎障害患者では低 Ca 血症のリスクが高くなるため注意 (Watkins KR, et al: Support Care Cancer 23: 1657-62, 2015 PMID: 25421444)

【特徴】 破骨細胞及び破骨細胞前駆細胞表面の RANK に結合する破骨細胞の種々の機能に必須なリガンド RANKL (receptor activator for nuclear factor- $\kappa$ B ligand) を標的とするヒト型 IgG2 モノクローナル抗体製剤。多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変での破骨細胞の活性亢進に対して用いられる。

【主な副作用・毒性】 低 Ca 血症 (痙攣, テタニー, しびれ, 失見当識, QT 延長など), 顎骨壊死, 貧血, 低リン血症, 低 Mg 血症, 頭痛, めまい, 高血圧, 呼吸困難, 血中クレアチニン増加など

【F】 62% [sc] (1)

【tmax】 1~4 週 (1)

【代謝】、他の免疫グロブリンと同様の経路で異化消失すると推定 (1)

【排泄】 資料なし (1) 【CL】 用量依存的に低下 (1) 3mg/kg 投与時 1.85mL/day/kg (1)

【t1/2】 3~4 週間 (1)

【蛋白結合率】 結合しないと思われる (1)

【Vd】 29~55 mL/kg で血漿容量に近似 (1)

【MW】 約 150000

【透析性】 資料なし (1)

【O/W 係数】 資料なし (1)

【更新日】 20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配付を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。